

受講番号 19013 学校名 高知東高等学校 氏名 大和田 彩

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 (a・bのうちの上位a) 生徒数 21 名
 科目名 英語I 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 Lingua-Land English Course I

クラスの様子・特徴

基本的な知識は身につけていないが、進学を機にもう一度頑張ろうという意欲のある者も多い。消極的でグループワークや音読への参加が苦手である。ただ、机に向かい学習するという習慣は身につけているのでそれを活かした活動が中心となっている。

問題の確定

受動的な活動を好むクラスで、その特色を活かしつつ効果的な学習を行うにはどのような活動を重視し実践していくとよいだろうか。

予備調査

A 授業の観察

単語テストやリスニング書き取りなどの作業には意欲的に参加している。コーラスリーディングでは声が小さく、あまり効果がないように感じる。全体よりもペアなど小さい単位で行ったほうが声が出ているようである。

B 生徒による授業評価

同クラスのホーム担任でもあり、日頃のコミュニケーションの機会が多いこともあって全体的に好意的な評価を得ることができた。アンケート結果により音読の重要性は理解しており、生徒自身は参加しているつもりであることがわかった。

C 学力データ

①英検4級(2006.1)(中学中級程度)・筆記試験総合(30点) 平均22点 ②定期考査 一学期中間(5/29) 平均80.8点(学年平均62.4) 一学期期末考査(7/11) 平均79.6点(学年平均62.6)

リサーチ・クエスチョン

教科書丸覚えは語彙力と読解力の向上につながるか

仮説・実践・検証

仮説1

英語が苦手な生徒はそもそも単語を覚えることが苦手である。まず単語力をつければ本文を理解しようとする意欲が出てきて、語彙の向上にもつながっていくのではないか。また、そのことが英語への苦手意識払拭の糸口となるのではないか。

実践1

毎回単語テストを行う。はじめは英語→日本語、続いて日本語→英語、という形で少なくとも各二回ずつは行う。何度も繰り返すことにより、最初はできなかった生徒も次頑張ることで必ず100点を取れるというチャンスを得ることができる。欲張ると煩雑になるので問題数は毎回10問程度に抑える。余裕があれば最終的には聞き取って語を書くということも行いたい。

検証1

毎回当然のように単語テストを繰り返すことにより、はじめは面倒がっていた生徒も次第に慣れてきた。「できる」という実感を持たせることが第一目標なので、事前に3分ほど時間を与えるようにしたところ、それぞれのやり方で集中して取り組む様子も見られるようになった。短時間でも真剣に取り組めばある程度の成果が得られるという実感をもてたようである。単語をまず頭に入れることでその後の訳す作業もスムーズに進みよかった。

仮説2

様々な形で音読を行い、耳と口からのインプットを図れば本文を頭に入れる一助となるのではないか。

実践2

音読は何度となく試みてはいるが、毎回のようにはささやかな声しか聞こえてこない。生徒だけで読ませると緊張してしまうようなのでテープについて教員も一緒に読むようにする。あるいはペアでの活動を取り入れ、どうしても参加せざるをえない状況を作ればよいのではないだろうか。

検証2

二度のクラス替えを経てメンバーが変わり、一部の元気の生徒の積極的な参加が見られるようになった。とはいえかなり偏りが見られ、英文を見てはいるものの発声には一切参加していないように見える生徒が大半である。ペアでの活動にすると、ペアの状況次第では活動がうまくいっていないように思われ、逆にペアワークがだらけた雰囲気を作ってしまうような印象も受けた。音読に関しては改善策を未だ模索中である。

仮説3

全文を聞き取って穴埋めをするという作業を繰り返せば、本文に何度も触れる機会を得ることができるので、本文を確認し全文を覚えることができるのではないだろうか。

実践3

全文の聞き取り穴埋めの難易度を三段階に分けて、ほぼ毎回行う。リスニングのスピードは教員が読むのではなく、発音とスピードになれるためCDを利用する。これも繰り返すことで毎回得点がアップしていく生徒が実感することが大切なので一度だけでは終わらせないようにする。

検証3

穴埋め問題を作って持っていくが、CDを流す前に文章を覚えていて問題を解いてしまう生徒も見られるようになった。新出語句に関してはかなりの生徒が覚えており「英文を頭に入れる」という点では一応の成功が得られたと感じている。

研究の成果

受け持った生徒21名ほぼ全員が「書く」という地道な作業を嫌がらず淡々とこなしてくれるため、机上の作業に関するリサーチはかなりうまくいったと感じる。今回のリサーチの一番の収穫は単語テストではないかと思う。短時間であっても時間を与えることにより集中して自分なりのやり方で語句を覚えるという作業もでき、授業最初のクラスの雰囲気作りにも役立った。語彙の習得に関してもある程度意欲があり、毎回きちんと取り組むクラスにおいてはかなりの成果が見られるのではないだろうか。これからもぜひ続けていこうと思う。

今後の授業改善の課題

機械的に頭に叩き込むという活動を中心に進めてきたため単語や本文の流れの把握にはつながったものの、文法の理解が弱く別の課になるとわからないという状況になってしまった。文法に関してはパターンプラクティスを取り入れ、単語や本文の流れと同じ要領で身につけるということをやっていると考えている。音読に関しては私自身の雰囲気作り技術の未熟さを痛感した。研究を深め、様々な手法を試しながら模索していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-846-5542

電子メール